

にっぽん丸に初めて乗って、、

2023年9月7日

私は50年前の1973年に大阪商船三井船舶に当時とても乗れるはずがない(当時そこそこのお金持ちでも豪華客船は高嶺の花でした)「にっぽん丸」(前セブンシーズ号)クルーズのカタログを依頼してこの中学生に一式送ってもらいました。その後本格的な国産クルーズ船「ふじ丸」の浸水、その時も柳原良平先生のイラストはがきを頂いていました。今も宝にしています、、

その後就職して呉服屋のバカ旦那から観光バスの運転士をたどり引退して、全国の長距離フェリーで旅をして、「ダイヤモンドプリンセス」が激安のため釜山から乗りましたが激安価格で文句は言えませんがご飯が美味しくなかったです。

ハイグレード船の商船三井船舶の「にっぽん丸」はとても手に届かないと思っていましたがある方のご配慮で3泊4日の「飛んでクルーズ北海道」に乗船することが出来ました。そのとき商船三井のクルーズデスクに申し込みの電話をしたらなんと、國領泰宏様名簿が残っております。ご住所もお変わりないですかとの由でびっくりしました！50年も登録があったなんて流石老舗の大阪商船(商船三井船舶)です。貯金をはたいて50年の夢の「にっぽん丸」に乗船！小樽を出港、部屋まで荷物が届けられサービスはやはり一流、ドレスコードはカジュアルでメインダイニングに行きました。何年振りか？フォークとナイフが左右に3つ以上ならびしかもダイプリのようアルマイトの貧弱な食器ではなく久々に一流のコース料理を満喫しました。ボーイさん達もアジアの人が多のですが一流のサービスを提供してくれました。

50年念願の「にっぽん丸」は既に3代目で30年のベテラン船ですがリニューアルして他のクルーズ船とは見劣りしません、どこかお料理が我が国で一番だと思います。もちろん「飛鳥Ⅱ」もオークラが入って素晴らしいですが、「にっぽん丸」の大阪商船三井船舶は戦前から一貫して国際航路の定期客船(南米航路のぶらじる丸・あるぜんちな丸等)を運行していて日本国籍の船として伝統があります。朝はもちろん焼き魚とお味噌汁はそつがなくそれでいて料亭のような気取った料理ではなく素朴なメニューで何か月もかかる南米航路では毎日故郷の味を楽しめたのだと思います。またディナーは、フランス料理の猿真似ではなく随所に日本の洋食テクニックが組み込まれて伝統の大阪商船の味がそのまま受け継がれていると感じました。べたべたのドミグラスソースではなくお味噌を使ったステーキソース等南米航路の遠い地で日本人として懐かしい味を味わえるフルコースにさぞや当時の乗船客も感動しただろうと、感銘いたしました。

飛鳥Ⅱの新船がドイツのベルフトマイアーに発注されていますが、「にっぽん丸」はまだ話を聞きません。乗船して思いましたが、客室も船の大きさも船キチとして波に揺られる、丁度良いサイズですが、、いかんせんメガシップのMSCやダイプリのプールなどの設備を知

っている以上そこだけは、物足りない気がします。私は顧客でないので余計なお世話ですが SHK グループの露天風呂付大浴場とプール 2 個と屋外ジャグジーとあの伝統のメインダイニングがあれば最強だと思います。でもこの 4 日間客層の良いいろんな方のお話が出来まして、保険や化粧品のセールス w w もなく大変優雅な時間を過ごさせていただきました。

お皿に今も大阪商船が入っていることとお品書きが戦前のもの、そして最後に大阪商船の別府航路で、初代「紅丸・紫丸」が記載されて伝統は商船三井に受け継がれていると思いました。関西汽船「くれない丸」つまりロイヤルウイングと新造の L P G 船「さんふらわあくれない」が瀬戸内海で反航して感動した後で、大阪商船の 100 年の歴史を楽しめ、幼いころの夢がかなったことを投稿せずにはられませんでした。

國領泰宏